

6.2 教育・研究指導のあり方

進捗状況報告

<p>【6.2.3】 社会人や外国人学生に対する教育は適切に行われており、2007年度には外国人2名、社会人3名が博士学位を取得した。</p> <p>【6.2.4】 きめ細かい研究指導の成果として、大学院生の学会発表や査読付きの英語学術論文への投稿件数は高水準を保っている（2007年度、学会発表（国内195件、海外46件）、論文発表（国内13件、海外41件））。大学院生が参加する先端的研究プロジェクトは、2008年4月現在文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（8件）、特定プロジェクトセンター（5件）、戦略的創造研究事業(CREST、1件)、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO、1件)が進行しており、質の高い研究環境が維持されている。</p> <p>【6.2.5】 連携大学院における研究指導は、主指導教員（連携先研究機関から任用した客員教員）と副指導教員（理工学研究科専任教員）の連携によって行われており、学生の状況を理工学研究科の専任教員が常に把握するようにしている。</p>

学内第三者評価

<p>少人数によるきめ細かい研究指導が行われてきた成果が、学会発表やそして査読付きの英語学術論文への投稿、論文発表などの成果をもたらしている。大学院生の研究プロジェクトへの参加や大学院連携による取り組みも順調である。</p> <p>その反面で、学生の大学入学時の基礎学力の不足によって、学部教育を通じても大学院における先端教育を理解できるレベルに到達しないケースが想定されることから、それへの対応について検討が必要である。</p>
<p>なお、学外委員からは以下の意見があった。 社会人や外国人大学院生への学位授与が順調に行われていることは評価できる。</p>